

北里大学薬学部薬学科6年生 卒業研究発表会 演題一覧

期日：平成23年 7月 2日（土）

場所：北里ホール（本館・地下1階） ※開会式のみ薬学部コンベンションホール

スケジュール

11:00～12:00 (ポスター掲示作業)
 12:15 開会式 (薬学部コンベンションホール)
 13:00～13:45 **演題番号**末尾 1, 5 番 ポスター示説時間
 13:45～14:30 **演題番号**末尾 2, 6, 0 番 ポスター示説時間
 14:30～15:00 休 憩
 15:00～15:45 **演題番号**末尾 3, 7, 9 番 ポスター示説時間
 15:45～16:30 **演題番号**末尾 4, 8 番 ポスター示説時間
 17:00 閉会
 (ポスター撤去作業)

※ 演者が複数の場合は、
 第二演者は、末尾番号 +1
 第三演者は、末尾番号 +2
 として、該当する時間帯に
 示説を行う。

教室名	発表題目	演者 (6年生のみ表示)	演題番号
生物分子設計学			
総演題数	5		
	発表題目		
1	DPP-4 と阻害剤の結合様式の解析 (1)	伊藤 晶子、山崎 雅之 1
2	DPP-4 と阻害剤の結合様式の解析 (2)	篠崎 緑、相馬 恵香、西田 理恵 2
3	DPP-4 と阻害剤の結合様式の解析 (3)	加藤 弘之、北岡 美乃里、三宅 悠 3
4	DPP-4 と阻害剤の結合様式の解析 (4)	勝本 真理、國廣 理沙、柱 美麗 4
5	DPP-4 の活性部位近傍の揺らぎ解析	三井 英史、武藤 拓也 5

教室名	発表題目	演者 (6年生のみ表示)	演題番号
創薬物理化学			
総演題数	13		
	発表題目		
1	オピオイド κ -選択的アゴニスト設計のための 3D-QSAR 解析	武井 悠 6
2	基準振動解析について	安達 紳一郎 7
3	非結合性相互作用計算 - Particle Mesh Ewald 法-について	大浦 絵里菜 8
4	ROCS に基づいたパーチャルスクリーニングのための 3D クエリー計算	大谷 和真 9

5	SBDD による HIV 薬の開発について	小野村 菜々子10
6	核酸の構造と機能について－ Z-DNA の生物学的意義 －	黄金井 寿奈11
7	タンパク質の配列と構造類似性について	下川 絵美子12
8	バーチャルフラグメントスクリーニングによる結合部位評価	関根 聡彦13
9	レヴィンタル・パラドックスについて	田中 真理14
10	タンパク質の階層構造	田中 里奈15
11	ヒトゲノム解読とアルツハイマー病	土屋 恵美16
12	分子構造最適化のためのニュートン法について	吉田 未希17
13	非ワトソン-クリック型塩基対構造	唐木 由紀18

教室名 生薬学教室
総演題数 11

発表題目

1	ポリスチレン系合成樹脂の特性を活用したゴシユアルカロイドの改良分取方法の検討	黒沢 彰紀19
2	Tenuifolin の大量取得に向けた効率的単離法の開発	齋藤 誠也20
3	医療用漢方製剤によるTRPV1作動活性とその種差（ヒト・マウス）に関する研究	中森 俊輔21
4	唐辛子成分（カプサイシン）及び西瓜成分（シトルリン）のマウス摘出血管に対する作用の評価	國井 柚22
5	腸炎モデルマウスにおける腸管TRPV1受容体の感受性変化	鴻巣 文佳、高橋 昌也23
6	マウス強制水泳時の脳内モノアミン量の変動とストレス負荷、LPS・レセルピン・精油投与の及ぼす影響	小林 摩美、天満 有紀24
7	マウス水浸拘束ストレス負荷が赤血球変形能及び視床下部-下垂体-副腎系に及ぼす影響	海老原 友晴25
8	マウス水浸拘束ストレス負荷時の心拍パワースペクトル解析と各種植物成分のリラックス効果	清水 絵美子26
9	カリン（ <i>Chaenomeles sinensis</i> ）抽出物のエストロゲン様作用	志村 沙耶加、水野日 咲子27
10	レイシ（ <i>Ganoderma lucidum</i> ）の抗菌周病菌活性の検討	前田 一輝28
11	HepG2細胞を用いた脂肪肝抑制活性評価系の検討	小原 総一郎29

教室名 薬用植物園
総演題数 3

発表題目

1	朮類生薬の基原にされるオケラ属植物の核遺伝子による種間比較について	工藤 輝久30
2	白朮の基原植物であるオケラ（ <i>Atractylodes japonica</i> ）のITS領域における種内変異について	高田 優美子31
3	蒼朮の基原植物である <i>Atractylodes lancea</i> の核遺伝子から見た種内変異について	星野 あずさ32

教室名 微生物薬品製造学教室
 総演題数 13

発表題目

1	微生物由来の抗結核剤の探索	松本 沙耶香33
2	Anthraquinone 類による MRSA 由来黄色色素形成阻害作用	鈴木 万里恵34
3	微生物由来 undecaprenyl pyrophosphate synthase 阻害物質の探索	高橋 朝子35
4	カイコ感染評価系を用いた微生物由来抗真菌剤の探索研究	橋本 朱佳36
5	微生物由来の amphotericin B 活性増強物質の探索研究	中島 英理奈37
6	微生物由来の進行性骨化性繊維異形成症治療薬の探索研究	下村 恵利奈38
7	微生物由来の神経幹細胞作用物質の探索研究	坂部 鮎美39
8	真菌代謝産物からの matrix metalloproteinase 阻害物質の探索研究	廣瀬 祥子40
9	微生物由来の線虫 <i>Ceanorhabditis elegans</i> 作用物質の探索研究	関 紗耶歌41
10	放線菌由来の抗MRSA剤の大量生産法の確立	山口 薫42
11	抗結核ペプチド lariat A の大量培養および精製	福島 崇43
12	<i>Streptomyces</i> sp. K01-0509 株より生産される guadinomine 類に関する研究	高山 雄矢44
13	Bufoalin によるマウスマクロファージ内脂肪滴蓄積阻害に関する作用機序解析	小林 啓介45

教室名 薬理学教室
 総演題数 9

発表題目

1	脳虚血時のマイクログリアの活性化及び BBB 崩壊における mPGES-1 の寄与の解析	青柳 匡輝46
2	マウスマイクログリア細胞におけるイソリケナンの抗炎症作用の解析	上田 万里子、塚田 佑衣47
3	大脳皮質ニューロンにおけるCa ²⁺ /カルモデュリン依存性プロテインキナーゼIβ2のリン酸化メカニズムの解析	近藤 依子48
4	NOによるCa ²⁺ /カルモデュリン依存性プロテインキナーゼIαの活性制御	松本 三実49
5	Ca ²⁺ /カルモデュリン依存性プロテインキナーゼIアイソフォームによる神経突起形成の制御について	倉田 みのり、山元 健司50
6	MARCKSリン酸化は神経細胞において PKC による PLD 活性化に関与している	栗原 里咲51
7	リチウムによる双極性障害治療における海馬での MARCKS 発現抑制の関与	左藤 敦子52
8	脳梗塞における COX と下流シグナルの役割	鳴崎 未来53
9	IGF-I 刺激による神経突起伸長開始における膜脂質ラフトの MARCKS 脱リン酸化の関与	永田 辰矢54

教室名 分子薬理学
 総演題数 11

発表題目

1	アドレナリン β 受容体を介した網膜血管調節機構の解明	渡邊 理沙55
---	-----------------------------	-------	---------

2	新規網膜血流量測定システムを用いた網膜循環改善薬の探索	石田 真	・ ・ ・ ・ 56
3	糖尿病性白内障に対する予防/治療薬の探索に関する研究	一條 友孝、中嶋 みさき	・ ・ ・ ・ 57
4	ラット及びマウス脈絡膜血管周皮細胞の免疫組織化学的特性	細井 智弘	・ ・ ・ ・ 58
5	新生仔マウスを用いた網膜血管新生の方向性調節機構に関する研究	松村 麻美	・ ・ ・ ・ 59
6	SDF-1/CXCR4 システムによる網膜血管新生の制御機構について	谷澤 有香	・ ・ ・ ・ 60
7	NMDA 誘発網膜神経傷害モデルラットで観察される網膜血管内皮細胞傷害における PI3K-Akt 経路の意義	赤沼 かおり	・ ・ ・ ・ 61
8	NMDA 誘発網膜神経傷害モデルラットの網膜神経および網膜血管傷害におけるセリンプロテアーゼの役割	津田 曜	・ ・ ・ ・ 62
9	実験的緑内障モデルにおけるカプサイシンの視神経保護効果	関谷 春菜、渡辺 彰宏	・ ・ ・ ・ 63
10	実験的緑内障モデルにおける新規 TRPV1 受容体刺激薬の視神経保護効果	奥野 由依	・ ・ ・ ・ 64
11	虚血・再灌流傷害に対する TRPV1 受容体刺激薬の細胞保護効果	神庭 操、國分 玲菜	・ ・ ・ ・ 65

教室名 薬剤学
総演題数 14

発表題目

1	hPCFT の Pro425 が L-MTX の輸送に及ぼす影響	石渡 明由美	・ ・ ・ ・ 66
2	hPCFT の Arg113 が L-MTX の輸送に与える影響	小庄 愛美	・ ・ ・ ・ 67
3	L-MTX の輸送におよぼす hPCFT の Ser318 の影響について	細川 沙友里	・ ・ ・ ・ 68
4	hPCFT による L-MTX の輸送における Arg376 の影響	泊 知里	・ ・ ・ ・ 69
5	OATP2B1 による Estrone-3-sulfate の輸送に及ぼす MTS 試薬の影響	宮地 涼子	・ ・ ・ ・ 70
6	Estrone-3-sulfate の輸送における OATP2B1 の膜貫通領域内 Cys 残基の関与について	森田 茉実	・ ・ ・ ・ 71
7	OATP2B1 による Estrone-3-sulfate の輸送における Arg607 の関与について	造力 由佳	・ ・ ・ ・ 72
8	CYP3A4 基質の小腸アベイラビリティの定量的予測	外川 雄貴	・ ・ ・ ・ 73
9	ITAM-PK モデルを用いたエリスロマイシンとトリアゾラムの薬物相互作用の予測	菅谷 藍	・ ・ ・ ・ 74
10	CYP2A6 活性と喫煙による発癌リスクに関する文献調査研究	阿南 めぐみ	・ ・ ・ ・ 75
11	MDR3 (ABCB4) の機能とその遺伝病に関する文献調査研究	黒田 美樹	・ ・ ・ ・ 76
12	バルプロ酸とカルバペネム系抗生物質の相互作用メカニズムに関する文献調査研究	肥塚 慧	・ ・ ・ ・ 77
13	CYP3A4 の誘導機構に関する文献調査研究	角田 洋輔	・ ・ ・ ・ 78
14	セントジョーンズワートとオキシコドンの薬物間相互作用に関する文献調査研究	寺崎 小百合	・ ・ ・ ・ 79

教室名 生体分子解析学
総演題数 7

発表題目

1	コラーゲンの経口摂取による肌への作用	青山 愛倫、小林 真弓	・ ・ ・ ・ 80
2	<i>in silico</i> スクリーニングに基づく新規D-アミノ酸オキシダーゼ阻害剤の同定と機能解析	大坂 奈央子、松田 さつき	・ ・ ・ ・ 81
3	シロイヌナズナにおけるD-アミノ酸代謝関連酵素の解析	加藤 智子	・ ・ ・ ・ 82

4	禁煙と禁煙補助薬	坂田 彩夏、佐川 優子	・ ・ ・ ・ 83
5	統合失調症患者血漿におけるアミノ酸の定量	田邊 莉奈	・ ・ ・ ・ 84
6	C _o Q10 と乳癌の相関性	野本 有美、服部 彩	・ ・ ・ ・ 85
7	災害医療における薬剤師の役割	橋本 知明、松井 久仁彦、村上 修太郎	・ ・ ・ ・ 86

教室名 生命薬化学
総演題数 13

発表題目

1	α -アミノケトンC-N結合の亜鉛-酢酸による還元開裂反応の検討	石川 響子	・ ・ ・ ・ 87
2	オピオイド κ 受容体作動薬の必須構造の検討	原田 幸昌	・ ・ ・ ・ 88
3	オピオイド δ 選択的作動薬の抗うつ作用に関する調査研究	香取 泰幸	・ ・ ・ ・ 89
4	新規活性薬物創出を志向した OGF (Opioid Growth Factor) の抗がん作用の検討	久保 浩子	・ ・ ・ ・ 90
5	オピオイド κ 受容体選択的作動薬サルビノリン誘導体に関する調査研究	高 正彦	・ ・ ・ ・ 91
6	オピオイド受容体における δ 受容体と κ 受容体のダイマーに関する調査研究	笹原 裕子	・ ・ ・ ・ 92
7	κ 作動薬、tifluadom の薬理作用 (調査研究)	下村 征史	・ ・ ・ ・ 93
8	μ 受容体拮抗薬としての 14-alkoxymorphinan 誘導体 cyprodime の構造活性相関とその問題点	鈴木 智亮	・ ・ ・ ・ 94
9	オピオイド μ 選択的作動薬の効果に対する δ 選択的化合物の影響に関する調査研究	関根 慧子	・ ・ ・ ・ 95
10	コカイン中毒薬物治療における κ 作動薬の可能性	中村 友美	・ ・ ・ ・ 96
11	末梢性オピオイド作動薬の可能性 (調査研究)	春山 幸子	・ ・ ・ ・ 97
12	オピオイド系化合物におけるフェノール性水酸基の生物学的等価体に関する調査研究	柳 達彦	・ ・ ・ ・ 98
13	オピオイド δ 受容体作動薬 SNC80 および TAN-67 に関する調査研究	山元 優	・ ・ ・ ・ 99

教室名 薬品製造化学
総演題数 13

発表題目

1	Harzianopyridone の全合成研究	伊澤 秀二郎	・ ・ ・ 100
2	ent-CitridoneA の全合成	石垣 達也	・ ・ ・ 101
3	NH ₄ F を用いた環状シリレンアセタールの位置選択的開環反応の検討	岡本 大介	・ ・ ・ 102
4	新規抗結核作用物質の推定構造の合成研究	奥川 友美子	・ ・ ・ 103
5	安定性向上を目指した nafuredin- γ の誘導体合成研究	小田 彩絵	・ ・ ・ 104
6	10- <i>epi</i> -SD6 の全合成	小濱 まり	・ ・ ・ 105
7	ACAT2 選択的阻害剤 PyripyropeneA の全合成	島本 卓弥	・ ・ ・ 106
8	PyripyropeneA の新規低分子誘導体の合成研究	高山 莉加	・ ・ ・ 107
9	Cyslabdan の全合成研究	常塚 涼子	・ ・ ・ 108
10	Claisen rearrangement を鍵反応とした天然物の全合成に関する文献調査	尾形 静香	・ ・ ・ 109

11	Evans アルドール反応を鍵反応とした天然物の全合成に関する文献調査	笠原 正晴	・・・110
12	Olefin metathesis を鍵反応とした天然物の全合成に関する文献調査	加藤 智之	・・・111
13	Crotylboration を鍵反応とした天然物の全合成に関する文献調査	佐藤 優里	・・・112

教室名 医薬品化学教室
総演題数 7
発表題目

1	ボロン酸の分子認識を利用した遊離糖の位置選択的グリコシル化反応の開発	笹島 弘章、相馬 和希	・・・113
2	β (1 \rightarrow 3, 6)分枝ガラクトオリゴ糖の簡易合成およびクラスター化	遠藤 正貴、小澤 貴史、千葉 匠	・・・114
3	無保護 mannose ドナーのアリールボロン酸存在下でのグリコシル化反応	石井 康太、栗原 優太、毛塚 智恵	・・・115
4	機能性硫酸化オリゴ糖構築のための位置選択的硫酸化の検討	木村 陽介	・・・116
5	5-アミノレブリン酸を含む新規配糖体の合成研究	須藤 善和	・・・117
6	抗ウイルス性抗生物質ファッティピラシン-8の合成研究	小林 峻志、坂本 靖	・・・118
7	新規不斉有機触媒の開発	永森 かすみ、西田 翔	・・・119

教室名 生化学
総演題数 14
発表題目

1	抗インフルエンザウイルス薬創薬のための Capped RNA の合成法の研究	生田 尚子	・・・120
2	Capped RNA の合成に用いるワクシニアウイルスキャッピング酵素の発現と精製	井口 幸子	・・・121
3	mTOR によるアクチン細胞骨格制御機構の解析	石井 淳子	・・・122
4	大腸がんにおけるクルクミン標的たんぱく質のリン酸化解析	樋口 裕	・・・123
5	プロテオミクス技術による低分子量Gタンパク質 DIRAS3 の結合タンパク質解析	芹澤 嘉宏	・・・124
6	プロテオミクス技術による低分子量Gタンパク質 RasL10B の結合タンパク質解析	船山 和哉	・・・125
7	新規 MT1-MMP 結合タンパク質の同定及び機能解析	荒河 希	・・・126
8	神経幹細胞・神経前駆細胞における制御機構の解析	牛田 麻衣	・・・127
9	VA 欠失型アデノウイルスベクター作製法の開発とC型肝炎治療への応用	大野 陽平	・・・128
10	麻疹ウイルスの新規レセプター探索	西尾 壮介	・・・129
11	ボルデテラ属細菌より分泌されるタンパク質の宿主細胞内への移行性を調べる実験系の確立	十倉 麻紀	・・・130
12	セロトニン2C受容体 mRNA 編集と鬱病に関する研究	滝川 百合子	・・・131
13	アルツハイマー病と SNPs の関係	立岡 拓哉	・・・132
14	精神疾患と SNPs との関係	田中 圭	・・・133

教室名
総演題数

微生物学
9

発表題目

1	<i>Salmonella</i> 転写調節タンパク質 SlyA の二量体形成阻害剤の検索	数井 沙由理	・・・134
2	<i>Chromobacterium</i> III 型分泌機構エフェクター CopE の機能解析	松本 あずさ	・・・135
3	大腸菌 0-157 における形質転換効率向上の検討	秋山 由佳、小泉 江里奈	・・・136
4	乳酸桿菌における自然免疫賦活化機構の解析 —AsnH 酵素活性の解析—	岡田 智哉、坪田 留央依	・・・137
5	線虫を用いた乳酸桿菌による感染防御効果の評価	高野 香織、宮内 麻也子、若松 真里	・・・138
6	III型エフェクター SseK1 および SseK2 のサルモネラ腸炎に対する役割	濱野 真理絵、原 義浩	・・・139
7	セフトリアキソン耐性淋菌の全ゲノム塩基配列決定の試み	鶴園 晴香	・・・140
8	タイ国における β -ラクタマーゼ産生淋菌の分子タイピングと β -ラクタマーゼ遺伝子の多様性	伊藤 麻紀子	・・・141
9	国内のイヌおよびウシのレプトスピラ症に関する研究	鈴木 麻未	・・・142

教室名
総演題数

公衆衛生学教室
10

発表題目

1	MerC 及び、SNARE を利用した Hg 及び Cd のファイトレメディエーション	飯田 麻子、久原 まり子	・・・143
2	<i>Pseudomonas</i> K-62 由来 68 kb plasmid pMR68 上の水銀耐性遺伝子に関する研究	奥野 格、小井澤 敬太、齋藤 真樹	・・・144
3	リンパ管内皮細胞長寿命株のエストロゲン感受性に関する研究	木内 沙耶	・・・145
4	NC/Nga マウス(アトピーモデルマウス)由来脾細胞への NRDEP (ナノ粒子リッチなディーゼル排気微粒子)の in vitro 曝露による影響	田中 英里	・・・146
5	ナノ粒子リッチなディーゼル排気微粒子がマウス骨髄由来樹状細胞に及ぼす影響(I)	中島 典子	・・・147
6	ナノ粒子を多く含むディーゼル排気微粒子がマウス骨髄由来樹状細胞に及ぼす影響の検討(II)	早川 絢香	・・・148
7	ディーゼル排気微粒子およびその構成物質による T リンパ球制御機構の解析	廣田 稚枝子	・・・149
8	肺気腫モデルを用いたナノサイズの粒子を多く含む Diesel Exhaust (DE) の生体影響に関する研究	下山 和樹、山見 慈美	・・・150
9	ナノ粒子リッチディーゼル排気ガスによる喘息への影響の検討—気道炎症の増悪メカニズム解析—	永井 沙知	・・・151
10	ナノ粒子リッチディーゼル排気ガス (NR-DE) による喘息への影響の検討 (ヘルパーT反応への影響)	若山 ゆり	・・・152

教室名
総演題数

衛生化学・放射性同位元素
13 (衛生-11、放射-2)

発表題目

1	PHGPx 欠損 MEF 細胞における新規細胞死のリピドミクス解析	木下 裕香子	・・・153
2	PHGPx 欠損心不全モデルマウスを用いたみづばち産品の予防効果	伊藤 寛起	・・・154
3	ミトコンドリア型 PHGPx 欠損マウスの運動機能低下の解析	松原 史織	・・・155
4	線虫 <i>C. elegans</i> を用いたカルジオリピンの生理機能の解析	川崎 亮輔、生田 真理	・・・156

5	カルジオリピン欠損線虫におけるミトコンドリア機能の解析	菊池 沙恵、武田 彩花	・・・157
6	ミトコンドリア型スフィンゴリエリナーゼについての生化学的解析	橋本 尚人	・・・158
7	ミトコンドリア型スフィンゴリエリナーゼ過剰発現細胞株を用いた生理的機能の解析	吉年 麻里絵	・・・159
8	ミトコンドリア型スフィンゴリエリナーゼ knockdown 細胞株を用いた生理的機能の解析	砂井 悠里	・・・160
9	リン脂質ヒドロペルオキシドの測定系の開発①	郡山 恵里	・・・161
10	リン脂質ヒドロペルオキシドの測定系の開発②とその応用	飯島 裕子	・・・162
11	アポトーシスにおけるリン脂質ヒドロペルオキシドの検出	平岡 沙織	・・・163
12	ガンのシグナル伝達と酸化ストレス、細胞死について	小山 哲	・・・164
13	UVA 照射による血小板活性化因子合成酵素の活性化	内山 碧、藤井 亜弥	・・・165

教室名 医療心理学部門
総演題数 2

発表題目

1	健康保持運動の継続性とコミュニティに関する研究～フィットネスクラブに集う人々を対象として～	岡本 智史	・・・166
2	薬学部学生における自尊感情、ストレスコーピング、ストレス反応の関連について	野村 奈帆	・・・167

教室名 情報薬学
総演題数 4

発表題目

1	Patient-based Learning を志向した臨床薬学教育のための e-learning システムの提案	小倉 朋子	・・・168
2	薬学部授業用 Web サイトの再設計とその構築	柴崎 正明	・・・169
3	高速な Ligand Based Virtual Screening 手法のための記述子及びフィンガープリント自動計算法の開発	関 達徳	・・・170
4	薬学教育用 e-learning システムの、ユーザーの視点による設計とその開発	渡辺 一輝	・・・171

教室名 病態解析学
総演題数 5

発表題目

1	コリン欠乏食マウスの ConcanavalinA 誘発性肝障害に対する pentoxifylline の効果の検討	荒井 孝徳	・・・172
2	びまん性肺疾患における MMP-12 および ADAMDEC1 の発現についての検討	大宮 隆宏	・・・173
3	<i>Helicobacter heilmannii</i> 感染に対する宿主発現遺伝子の網羅的解析	小松 陽子	・・・174
4	<i>Helicobacter heilmannii</i> 感染による胃 MALT リンパ腫形成における IL-10 の役割	品川 桂子	・・・175
5	培養心筋細胞における細胞傷害モデルの確立と薬物による治療効果の検討	高橋 沙佑里	・・・176

教室名	臨床統計学		
総演題数	3		
	発表題目		
1	乳がんのリンパ節転移個数の予測モデル構築	大上 仁奈	・・・177
2	Gail モデルを基にした日本人を対象とする長期乳がん罹患率予測モデルの構築	川口 絢子	・・・178
3	東アジア国際共同治験における各人種間での薬効同等性の検討	藤巻 将行	・・・179

教室名	薬物治療学 I		
総演題数	4		
	発表題目		
1	医薬品副作用情報の検索システムの構築～初期症状に基づく効率的な検索法～	小川 隆弘	・・・180
2	抗 HIV 薬の適正使用に関する研究 ～Tenofovir 投与症例における腎機能評価～	白幡 路子	・・・181
3	ベンゾジアゼピン受容体作動薬服用のリハビリテーションへの影響ー心臓リハビリテーション実施患者の筋力との関係ー	婦川 貴博	・・・182
4	抗悪性腫瘍薬の簡易懸濁法に関する検討ーゼローダ [®] 錠とタイケルブ [®] 錠の崩壊懸濁性とチューブ通過性ー	三橋 真由美	・・・183

教室名	薬物治療学 II		
総演題数	4		
	発表題目		
1	消化器がん疼痛治療患者を対象としたフェンタニル注射剤持続静脈内投与と経皮吸収型フェンタニル貼付剤の投与量換算比に関する研究	岩佐 元輝	・・・184
2	北里大学東病院精神科入院患者における抗精神病薬の単剤化率と併用薬に関する処方実態調査	大谷 良樹	・・・185
3	消化器がん患者におけるがん化学療法誘発性悪心嘔吐に対する新規制吐薬（neurokinin-1 受容体拮抗薬アプレピタント）の臨床成績および QOL への影響に関する研究	田中 祥大	・・・186
4	北里大学東病院における広域ペニシリン系抗菌薬ピペラシリンナトリウム（PIPC）の使用実態調査および感染症別の有効性に関する研究	吉田 優	・・・187

教室名	薬物治療学 III		
総演題数	8		
	発表題目		
1	SU 薬治療中の 2 型糖尿病患者におけるインスリン切替群とインスリン併用群との比較検討（レトロスペクティブ研究）	稲葉 恵理	・・・188
2	ヒト膀胱癌細胞株における Gemcitabine 耐性機序と RRM1 の関与について	口町 恵里子	・・・189
3	北里研究所病院における抗菌薬使用および耐性菌のサーベイランス	熊倉 悠人	・・・190
4	EGFR 細胞外領域の動的挙動と EGFR 阻害薬に関する研究	田代 千明	・・・191
5	2 型糖尿病患者における慢性血管合併症リスクの検討（レトロスペクティブ研究）	中原 健太	・・・192

6	悪性腫瘍患者における薬剤性せん妄の発現に関するレトロスペクティブ研究	中村 仁美	・・・193
7	薬物乱用頭痛患者における急性期頭痛治療薬の精神的依存度に関する研究	服部 裕吾	・・・194
8	自転・公転式ミキサーを用いた軟膏製剤の混合性評価に関する研究	横田 有香	・・・195

教室名 薬物治療学IV
総演題数 4

発表題目

1	I C U における注射薬・輸液の適正使用を目指して ー配合変化に関する情報整備の工夫ー	赤木 麻理子	・・・196
2	脳外科・神経内科病棟での簡易懸濁法の導入から全病棟への拡大に向けた情報の構築	加藤 雅大	・・・197
3	適用外処方「ワルファリン・プロクローム併用療法」の実態と臨床薬学的評価	菊地 美里	・・・198
4	一包化および粉碎指示処方せんの調剤時間に及ぼす影響	佐藤 充朗	・・・199

教室名 保険薬局学
総演題数 3

発表題目

1	臨床用量と無毒性量及びその曝露レベルからみた医薬品の安全性プロファイル	今井 郁弥	・・・200
2	保険薬局におけるライフサイクルマネジメント製剤のデータベース作成に関する研究	清水 美希	・・・201
3	保険薬局におけるハイリスク薬服用患者に対する継続的ケアシートと個別指導ツールの検討	田中 夕加里	・・・202

教室名 薬物動態学
総演題数 3

発表題目

1	アミノグリコシド系抗生物質の血中濃度予測性と抗菌活性に関する研究	江川 由希子	・・・203
2	テイコプラニンの投与設計に関する研究	梶野 哲	・・・204
3	北里大学北里研究所病院における抗菌薬の感受性と選択・投与方法に関する研究	松原 慎	・・・205

教室名 中毒学
総演題数 4

発表題目

1	<i>N</i> -Acetylcysteine の glutathione 補給に基づく抗酸化効果の指標の探索	青沼 めぐみ	・・・206
2	臨床中毒における薬毒物試験法の新たな応用	金原 健太	・・・207

- | | | | |
|---|---|--------|--------|
| 3 | 造血幹細胞移植前治療による体内 glutathione(GSH) 変動の評価—蛍光誘導体化法を用いた血中 GSH 濃度の測定— | 堀越 麻友美 | ・・・208 |
| 4 | 家庭内誤飲事故の評価とその防止に有用な科学的データの作成 —紙巻きタバコのニコチン含量の測定と誤飲事故の文献的評価— | 松田 ひとみ | ・・・209 |

教室名

臨床薬学海外研修

総演題数

2

発表題目

- | | | | |
|---|--------------------------------------|---|--------|
| 1 | 平成23年度薬学部国際学術交流 アイオワ大学における臨床薬学研修報告 | 今井 郁弥、加藤 弘之、
清水 美希、田中 夕加里 | ・・・210 |
| 2 | 平成23年度薬学部国際学術交流 ケンタッキー大学における臨床薬学研修報告 | 笹島 弘章、大坂 奈央子、田中 里奈、
寺崎 小百合、十倉 麻紀、山見 慈美、
婦川 隆博、白幡 路子、熊倉 悠人、
中村 仁美、佐藤 充朗 | ・・・211 |

